

原子力施設周辺における環境

前号では、被ばく線量について自然の放射線による被ばくと原子力施設からの被ばくについて解説しましたところ、多くのご感想、ご意見、ご質問をいただきました。大変ありがとうございました。今回はそれらをまとめて特集としてみました。

感想

- 毎号、関心を持って拝見しております。特にVol.130では「監視結果」が良かったと思われれます。具体的に身近な動きに目が注がれました。(日立市 70歳 男性)
- 今回のあす (Vol.130) の環境放射線のページは、絵で比較してあったので、わかりやすくよかったです。文章では、わかりにくいので。(東海村 58歳 女性)
- 今月号で、監視結果が詳しく載っていて、放射線量と被ばくの関係が理解出来ました。(水戸市 49歳 女性)
- 自然の放射線により、常に被ばくを受けているという記事、興味深く見ました。(ひたちなか市 68歳 男性)
- 自然の放射線による被ばくが意外と多いのに驚きました。飛行機のパイロットなどが被ばくを受けるというのは聞いたことがありますが…。普通に生活していてこんなに受けていること、初めて知りました。(ひたちなか市 37歳 男性)
- 今回Vol.130の“自然の放射線による被ばく”に少しびっくりしました。放射線について知らないことがたくさんあるんですね。これからも少しずつ読んで参考にしたいです。(ひたちなか市 42歳 女性)

編集者

これからも環境放射線に関することをはじめ、原子力について読者の皆さま方にわかりやすく伝えていきたいと考えております。

意見

- 「環境放射線の監視結果」が報告されるのは、よいと思います。平成17年度の結果報告が、9月ではなく、もっと早くなるといいのですが…。(日立市 47歳 女性)
- 環境放射線の監視結果と監視委員会の評価が報告されました。今後も定期的に報告されますようお願い申し上げます。(ひたちなか市 69歳 男性)
- 環境放射線の監視結果は毎回参考にしています。特に「日常生活の中でみてみると」の内容はわかりやすいです。今後も具体的な内容に心がけて下さいますように。(ひたちなか市 50歳 女性)

編集者

監視結果は四半期ごとに季報として公表しており、より早く公表できるように努力していきます。環境へ影響のある事故、トラブルをいち早く感知するための空間放射線量の測定結果は7ページの茨城県環境監視センターのホームページで24時間リアルタイムに公表しています。ご参考として下さい。

質問

- Q** プラジルのガラバリでの年間放射線の量はなぜ高いのですか。(水戸市 70歳 男性)
- A** ガラバリは、大地に含まれる自然の放射性物質のトリウムやウランを多く含むモナザイトという岩石や砂の層が多くある地域にあります。7ページの空間放射線量の解説にある自然の放射線が高線量の顕著な例です。
- Q** 飲食物に含まれる放射性物質の数値を知りたいのですが。(日立市 男性)
- A** 監視計画に従って、飲料水、牛乳、野菜、精米、魚類、貝類、海藻類中の放射性核種を測定し、その結果を監視季報で公表しており、監視季報は、関係市町村や図書館でご覧いただけます。なお、現在含まれているものは過去に行われた核爆発実験によるものが大部分です。
- Q** 自然の放射線や、原子力施設からの放射線により被ばくをしているとあるが、被ばくした場合は、何年間後に完全に無くなるのか、それとも蓄積し続けるのか、よく分かりません。自然に放出されるのですか？(日立市 56歳 男性)
- A** 放射線は蓄積しません。呼吸や飲食によって体に取り込まれた放射性物質は、その寿命、体内での代謝により減少しますが、放射性物質の種類によりその体内残留期間は、長短異なります。
- Q** 胸部X線 (CTスキャン) を年に2回~3回も受ける昨今は危険度が高いのではないのでしょうか？(水戸市 70歳 男性)、(日立市 67歳 男性)
- A** 胸部X線CTスキャンは6.4ミリシーベルトとされています。全身被ばく200ミリシーベルト程度以下では臨床症状が確認されていません。ご心配なことがございましたら担当医師にご相談なされてはいかがでしょうか。

放射線の監視結果

(平成18年4月～6月)

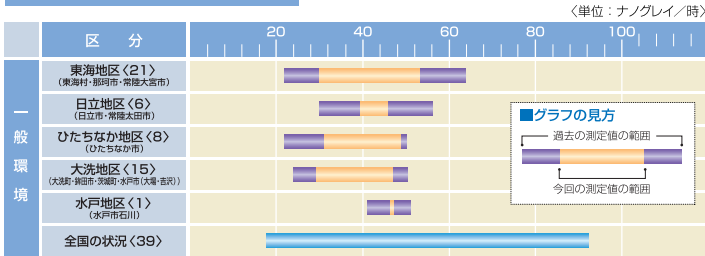
監視委員会の評価

平成18年度第2回茨城県東海地区環境放射線監視委員会(委員長:川俣副知事、平成18年10月3日開催)の評価の結果、環境中の放射線や放射能の異常は認められませんでした。また、原子力施設からの排気・排水中の放射能も異常は認められませんでした。

空間放射線量

平成18年4月から6月までの3ヵ月間、毎日24時間連続測定された空間の放射線量(ガンマ線)は、過去に測定された値と比較して同程度であり、**異常は認められませんでした**。測定値が場所により異なるのは、測定局が設置されている場所の違い(土壌、コンクリートなどの建物や道路の状況など)によるものです。コンクリートなどにはもともと自然の放射性物質が含まれているので、その近くでは放射線量はわずかに高くなります。

地区ごとの変動幅(月平均値)

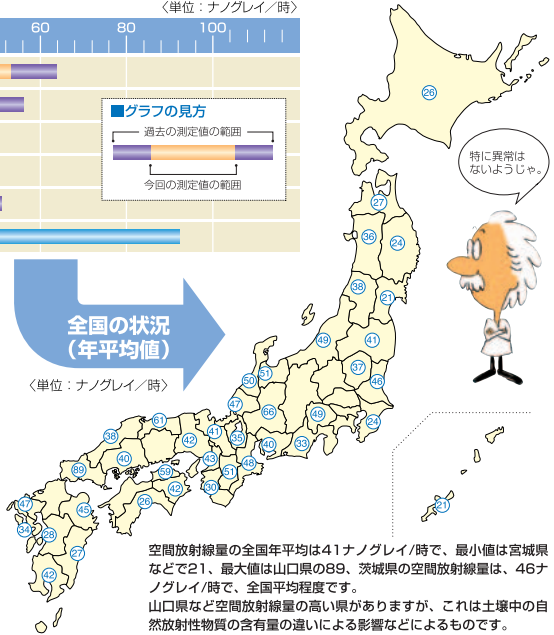


全国<39>の数は測定局数

全国の状況: 39道府県の環境公害研究所等に設置された放射線測定局における平成16年度の月平均値は17～92ナノグレイ/時でした。(平成16年度環境放射線データベース(文部科学省)による)

全国<39>の状況(年平均値)

〈単位:ナノグレイ/時〉



空間放射線量の全国年平均は41ナノグレイ/時で、最小値は宮城県などで21、最大値は山口県の89、茨城県の空間放射線量は、46ナノグレイ/時で、全国平均程度です。山口県など空間放射線量の高い県がありますが、これは土壌中の自然放射性物質の含有量の違いによる影響などによるものです。

周辺環境における放射能

周辺地域で生産された牛乳や空気中のちに含まれる放射能を測定しましたが、**異常は認められませんでした**。

原子力施設からの排気・排水中の放射能

原子力施設から排出される排気・排水中の放射能を測定した結果、過去に測定された範囲内または法律で定められている基準値以下で、**異常は認められませんでした**。

※詳細については **茨城県原子力安全対策課** までお問い合わせください。TEL.029-301-2922

環境監視センターHPリニューアル

環境放射線の監視・測定を行っている茨城県環境監視センターのホームページを全面更新しました。業務内容や監視測定の結果をわかりやすく紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

<http://www.kougai-pref-ibaraki.jp/>

主な更新項目

- 業務内容の紹介
- 環境放射線の状況
- 測定結果の評価と公表
- 新センター建設